

超臨界流体部会 令和3年度 第2回役員会 議事録

(役員会)

日時：令和4年3月16日(水) 12:00~13:00

場所：オンライン会議(学会 GOING VIRTUAL システム)

報告事項

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1. NEWS LETTER No. 33 に関する報告 | 資料 1 |
| 2. セミナー「バイオマス処理における亜臨界水の活用について」の報告 | 資料 2 |
| 3. 化学工学会第 87 年会および IChES2022 について | 資料 3 |
| 4. 2022 年度(令和 4 年度)化学工学年鑑について | 資料 4 |
| 5. 会員数・会員異動について | 資料 5 |
| 6. 共催、協賛事業、関連国際学会について | 資料 6 |
| 7. 令和 3 年度決算および令和 4 年度予算案(本部提出)について | 資料 7 |
| 8. 部会 HP について | 資料 8 |
| 9. その他 | |

審議事項

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1. 令和 4 年度活動計画(本部に提出した内容) | 資料 9 |
| 2. 令和 4 年度部会役員・幹事・委員の確認 | 資料 10 |
| 3. その他 | |

参加者：23 人(オンライン)

部会長あいさつ

渡邊部会長より、オンライン開催をふまえてのあいさつがなされた。

報告事項

資料1 NEWS LETTER No. 33 に関する報告

織田先生より報告がなされた。次号は、6月の発行を予定しており、織田先生がメイン担当となる旨の説明があった。

資料2 セミナー「バイオマス処理における亜臨界水の活用について」の報告

渡邊部会長より報告がなされた。セミナーは関心が高い内容なので、今後も継続的に開催できるように企画を考えたい旨の説明があった。

資料3 化学工学会第87年会および IChES2022 について

年会、国際シンポジウムに対して、菅居先生、渡邊部会長よりそれぞれ説明があった。

資料4 2022年度（令和4年度）化学工学年鑑について（とりまとめ 基礎物性分科会）

事務局より、基礎物性分科会がとりまとめを行い、執筆者（予定者）に対して本部から依頼の連絡がある旨の説明があった。

資料5 会員数・会員異動について（令和3年9月から令和4年2月まで）

事務局より報告がなされた。

資料6 共催、協賛事業、関連国際学会について

事務局より報告がなされた。渡邊部会長より、ISSF2022（Gala Partnerの件など）およびWasteEng 2022についての説明があった。ISSF2022への支出は、3月（新年度）になった旨が報告された。

資料7 令和3年度決算および令和4年度予算案（本部提出）について

事務局より報告がなされた。また、監査の結果について猪股先生から報告があった。

部会の資産については、ゆうちょ銀行（通常使用）、三井住友銀行（遊休資産、2021年度450万円）の口座でそれぞれ管理されている。

ハイブリッド講演会用のツール（化学工学会本部が推薦した機種）の購入、IChES2021・部会 20 周年記念シンポジウムなどの講師謝礼、MTMS' 21 の共催金、通信運搬費（ホームページ）が主な支出である。

3 月 16 日の役員会では、貸借対照表の押印の日付が令和 3 年の指摘があった。後日、令和 4 年に修正した。日付以外のその他の記載内容は同じである。

また、令和 4 年度予算案は、昨年 11 月に本部に提出したものをベースとしているため、ISSF2022 に関するものが含まれていない旨の説明があった。

資料 8 部会 HP について

町田先生より報告がなされた。Web 決済システム (Peatix) の利用については、令和 4 年度も行事企画の際に相談できれば旨の発言があった。小野先生から、部会ホームページの更新作業において、記載内容の確認のためにメール送付する必要があるが、その際は回答をお願いする旨の発言があった。

また、HP の管理についても、町田先生から小野先生、さらに次の管理者へとうまく引継ぎができるように運営したい旨の発言があった。

渡邊部会長より、今後の行事（サマースクールなど）での Web 決済システムの適用について、HP 担当者の負担が過大にならないかとの質問があった。町田先生より、行事の企画担当（たとえば分科会）でも充分に対応可能である旨の回答があった。さらに、部会長より ISSF2022 の Gala Partner によるプロシーディングの取り扱い（リンクなど）についても検討いただきたい旨の発言があった。

猪股先生より、ホームページが強化されたので、ページ内の資料について、行事の参加者・非参加者および著作権などを考慮したうえでサービスのさらなる向上を期待する旨の発言があった。

百瀬先生より、決済システムの振込方法（開催後の振込）では行事当日の支払いが難しくなることは問題とならないか旨の質問があった。部会長より、金銭的な余裕があり問題はない旨の返答があった。

Web 決済システムについては、個人情報取り扱いでシステム担当者が多数となることは問題ではないか旨の指摘があった。町田先生より、ホームページ担当者などで対応を考えたい旨の回答があった。

審議事項

資料 9 令和 4 年度活動計画（本部に提出した内容）

事務局より説明がなされた。令和 4 年度もほぼ例年どおりに進めていくこととし、大きな異論はなかった。

なお、基礎セミナーについては、3 月下旬の日程を取り消し、これから立案したのちに審議して進めたい旨を提案した。

サマースクールについて、担当のエネルギー分科会の岡島先生より、日程としては9月ぐらいを候補、今後の状況が予測困難なのでオンライン開催を検討、講演の他に学生交流会（大学間）をスクール内容に含める案が説明された。渡邊部会長より、開催形式についての質問があり、岡島先生より状況に応じて会場の設定も検討したい旨の回答があった。部会長より、学会よりもしきいが低いサマースクールなので、学生相互だけでなく、先生や企業の方との交流ができる機会は可能ならば確保したい旨の要望があった。

資料 10 令和4年度部会役員・幹事・委員の確認（案は全員留任）

渡邊部会長より説明がなされた。1期2年なので、2年めもお願いしたい旨の発言があった。異論はなかった。

その他

部会長より、部会に許される資産（内部留保）に対する化学工学会本部の動きについての説明があった。超臨界流体部会の資産（資料7の貸借対照表を参照）を有効利用すべく、部会活動のよりいっそうの活性化（セミナーの実施や書籍の刊行など）をはかりたく、部会の会員からも積極的な企画提案をお願いしたいとの発言があった

最後に部会長より

できるだけ人と人が会えるような状況をつくりあげて、新しいネットワークもつくりつつ、多くの知識を生みだせるような場として部会を使っただけならば旨の発言があった。